



世界に希望を生み出そう
RI会長 ゴードン R.マッキナリー

2023-2024年

Rotary District 2640 Japan

ROTARY CLUB OF KAINAN EAST



海南東ロータリークラブ

会長 岸 友子 幹事 角谷 太基 SAA 田中 祥秀

第 2173 回例会

2024年3月25日(月)

海南商工会議所4F 12:30~

PETS 報告 田岡 郁敏 君

1. 開会点鐘

2. ロータリーソング

「四つのテスト」

3. ゲスト紹介 米山記念奨学生 ファム・トゥ・ヒエン様

4. 出席報告

会員総数 40 名 出席者数 24 名

出席義務規定適用免除会員 2 名

出席率 63.16% 前回修正出席率 68.42%

5. 会長スピーチ

会長 岸 友子 君

みなさん、こんにちは。昨日は大相撲、尊富士の優勝すごかったですね。新入幕初優勝は実に110年ぶりということで、「記録より記憶に残る試合」という恩師の教えを守った結果だそうですがすごい記録の連続で地元はもとより日本中大喜びでした。



本日は、ゲストに米山奨学生のファム・ドウ・ヒエンさんにお越しいただいております。3月で奨学期間が終了するので本日最後の例会参加となります。ヒエンちゃんは当クラブのマスコットの存在で、ホントに可愛くてあつという間の1年でした。3/23(土)黒江の古民家で開催されたベトナム紹介のイベントに行ってきましたが、故郷のこといろいろお話を聞きぜひベトナムに行ってみたくなりました。また、6年間の日本での生活を楽しんでいただき、日本を大好きでいてくださり、4月から日本の会社に就職して頑張ろうとしている、真面目でポジティブなヒエンちゃんの姿応援せずにはいられません。頑張ってください。

本日例会の卓話は田岡会長エレクトのPETS報告です。いよいよ交代が目前に迫ってきましたが、よろしくお願いいたします。

彰化東南 RC 来和ですが、4月8日に22名で来られます。会長・幹事・国際委員長と寺下さんの4人で関空に

お出迎えに行き、19時から商工会議所で夜間例会を開催する予定です。皆さん多数ご参加よろしくお願いたします。

6. 幹事報告

幹事 角谷 太基 君

○例会臨時変更のお知らせ

和歌山東南 RC 4月3日(水)→3日(水)

和歌山城二の丸庭園(お花見会)

4月24日(水)→22日(月)

18:30~ ホテルアパローム紀の国

(アゼリア RC との合同例会)

高野山 RC 4月12日(金)移動例会

(花見例会)

和歌山北 RC 4月15日(月)→13日(土)17:00~

ホテルグランヴィア和歌山6F

創立45周年記念式典・祝賀会

○例会休会のお知らせ

田辺東 RC 4月10日(水)

有田 RC 4月11日(木)

和歌山東南 RC 4月17日(水)

高野山 RC 4月26日(金)

和歌山中 RC 4月26日(金)

和歌山北 RC 4月29日(月・祝)

有田南 RC 4月30日(火)

7. 米山記念奨学生 ファム・トゥ・ヒエン様

皆さん、1年間お世話になり、有難うございました。沢山の思い出があり、楽しい事ばかりでした。スライドにまとめてみました。ご覧ください。

海南東 RC の皆さんのことは、一生わすれません。どうか皆さんもお元気で活躍ください。有難うございました。



3月は「水と衛生月間」

四つのテスト 資料はこれにてらしてから

- ①真実かどうか ②好意と友情を深められるか
③みんなに公平か ④みんなのためになるかどうか

Rotary



世界に希望を生み出そう

事務所 〒642-0002

海南市日方 1294 (海南商工会議所 4F)

TEL:073-483-0801 FAX:073-483-2266

http://www.kainaneast-rc.jp

E-mail: info@kainaneast-rc.jp

8. 会員卓話 会長エレクト 田岡 郁敏 君 会長エレクト研修セミナー(PETS)報告

さる3月10日アバローム紀の国においてPETSが開催されました。PETSとはPresident-Erect Training Seminarの略で次期会長になる人が研修・教育を行う情報提供プログラムです。クラブ会長の能力、知識、やる気を育成することが目的となっています。まず野村ガバナーエレクトより次年度RI会長の方針の伝達を受ける。当地区の次年度方針の伝達を受ける。地区予算案の説明を受ける。その上で各部門の活動状況と課題への理解を深める。次年度地区内会長間の交流を深めるという働きがあります。



まず次年度地区役員が紹介されその後野村壮吾ガバナーエレクトより2024-2025年度RIテーマ「ロータリーのマジック」が発表されました。



国際ロータリーのステファニー・アーチック会長エレクトは、2024-25年度会長テーマ「ロータリーのマジック」(The Magic of Rotary)を発表し、多くの人びとを救うロータリーの力を認識してこれをさらに広げるよう呼びかけました。ステファニー・アーチックは米国ペンシルバニア州のマクマリーロータリークラブの出身です。

「誤解しないでください。私たちは魔法の杖を振って呪文を唱えるだけでポリオを根絶したり、世界に平和をもたらしたりするわけではありません」。1月8日、ロータリー国際協議会でアーチック会長エレクトは次期地区ガバナーにこう語りました。「それは皆さん次第です。プロジェクトを終えるたび、寄付するたび、新会員を迎えるたびに、皆さんはマジック(魔法)を生み出すのです」

テーマ講演の動画を見る

マクマリーロータリークラブ(米国ペンシルバニア州)の会員であるアーチック会長エレクトは、ドミニカ共和国で浄水器の設置活動に携わったときにロータリーのマジックを目にしました。そのとき、汚い水がフィルターに入り、反対側から透明な水が出てくるのを、二人の少年が見ていました。

「少年の一人が私の袖をつかんで、『もう一度魔法を見せて』と言ったのです」とアーチック氏。「もちろん、その浄水器が魔法なのではありません。浄水器を輸送し、設置し、現地のリーダーと協力してメンテナンスを行うために、私たちは懸命に活動しました。安全な水を簡単に入手できれば自分たちの人生が変わるということを、少年たちは知っていました。私が少しでもその力になれたと知ったことで、私の人生も変わったのです」

平和を優先する

アーチック氏は、ロータリーの行動計画を推進し、継続と変化のバランスを取り、平和のために活動す

るよう会員に促しました。2025年には「分断された世界を癒す」をテーマに会長主催平和会議を開催する予定となっています。

ロータリーには、平和センターのネットワークを通じて平和を促進してきた長い歴史があると、アーチック氏は述べました。世界各地の名門大学に拠点を置く平和センターは、現在140カ国以上で活躍する約1,800人の平和フェローを育ててきました。トルコのイスタンブールにあるバチエシヒシユ大学に設置される最新の平和センターでは、2025年に第1期フェローが学業を開始します。

「ロータリー平和フェローシップは、紛争を終わらせ、予防するきっかけとなる平和・開発の専門家を世界各地で育成するために、20年以上前に始まりました」とアーチック氏。「この会議は、ロータリーの平和活動に焦点を当て、ともに学ぶ機会となります」

アーチック氏はさらに、ポリオ根絶へのコミットメントについても繰り返し触れ、ポリオプラス・ソサエティへの参加や、各地区でのソサエティの創設など、ポリオ根絶のために全力を尽くすよう次期ガバナーに求めました。

「地元の議員や政府のリーダーに連絡し、ポリオが現在も脅威であることを伝えて、ポリオ根絶への支援を呼びかけてください。ポリオは今も私たちの最優先事項であり、最大限のコミットメントが必要とされます。成すべき重要な仕事はまだ多くあります」

継続と変化のバランス

また、継続と変化のバランスを取ることの必要性も強調し、どちらもロータリー行動計画の原動力であると述べました。

「この計画は、ロータリーの最善のアイデアを捨てるのではなく、それを土台として築いていくもの」とアーチック氏。「私たちは、バランスを取るという難題に直面しています。自分たちを変えつつも、自分たちの真の姿に忠実であり続けなければなりません」さらに、クラブでの体験を会員にとって魅力的なものとするために必要な対策を取るよう、ガバナーに求めました。

「これは、皆さんの地区でのやり方を変えることを意味するかもしれません。地区が過去50年間に同じ方法で物事を行ってきたのであれば、おそらくそれを見直す時が来ているでしょう。地区内のクラブが活発に活動していない場合、または会員が減っている場合、地域社会にもっと合った新クラブを結成する時が来ているのかもしれません。クラブや地区が長年変わっていないからといって、誰も変化を望んでいないわけではありません」

アーチック氏は、好ましい変化をもたらす一つの方法は、クラブで多様性、公平さ、インクルージョン(DEI)の原則を取り入れることであると述べました。「行動志向の次世代の人たちをオープンな心で迎えていただけることを願っています。たとえ、地元クラブの典型的な会員とは異なるタイプの人であっても」とアーチック氏。「DEIを受け入れれば、共通の目

的のために結束しやすくなります。ともに献身し、力を注げば、ロータリーは最も効果的で時代に即した存在になることができます」

その後次期ガバナー野村壮吾さんによる基本方針が説明されました。2024-2025 ガバナー基本方針は、「ロータリーの原点 四つのテストを実践しよう」です。

ロータリークラブの原点は親睦と奉仕です。会員が親睦を深めそれぞれが異業種であることを利用した集まりです。現在ロータリーの中核的価値観として、親睦、リーダーシップ、高潔性、多様性、奉仕があげられます。具体的に以下の項目を奨励することになっています。

- ・知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること
- ・職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものとする
- ・ロータリアン一人一人が個人としてまた事業および社会生活において、日々奉仕の理念を実践すること
- ・奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること

これらの目的はロータリークラブが地域社会に持続的な変化を生み出すための基盤となっています。

「四つのテスト」

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

RI会長ステファニーAアーチックは「四つのテスト」の実践で世界はよりよくなると仰っています。思いやりのある行動を取ることで不安や落ち込んでいた心を和らげ既知のどのアプローチよりも社会的なつながりを効果的に促すことができます。私たちは他者を助けることに喜びを見出します。助けられる人びとまた、その周りにいる人々もこのロータリーの奉仕活動から精神的な平和を感じ、地域の平和構築推進のインパクトにつながることでしょう。

ロータリーの奉仕活動の原単位、会員個人です。一人一人が自身の行動を「四つのテスト」と照らし合わせながら行動することで、ロータリーの価値は向上します。

個人の集まりがクラブです。「四つのテスト」を実践している個人が集まったクラブは、思いやりあふれ、地域社会のためになる奉仕活動が出来る元気なクラブに違いありません。

各クラブのロータリー活動を支援するにあたり、地区組織の見直しを図ります。2640 地区の身の丈にあった組織のスリム化、また暗黙知化、属人化している業務、規則などの見直しをして形式知化マニュアル化して継続性が担保されるように改革します。

またDEI(多様性、公平さ、インクルージョン)の精神を取り入れ金太郎あめの様なクラブの集まりではなく多様なクラブの個性を生かすことを考えるととも



に新しいことへのチャレンジにも惜しみなく支援していきます。個性ある2640地区の各クラブが互いに交流刺激しあう事で、各クラブが成長発展することを願っています。と伝えました。

その他の報告事項として2025年の世界大会は6月21日から25日にカナダのカルガリーで開催されることが決まりました。

報告事項として、ロータリー財団年次基金寄付の目標が180ドル(約27000円)ポリオプラス基金寄付が30ドル(約4500円)

米山記念奨学会への寄付は今年度と同額で普通寄付6,000円 特別寄付10,000円となっています。

また地区資金分担金は案として、地区賦課金一人当たり20,000円 地区大会賦課金一人当たり6,000円、地区大会登録料3,000円となっています。

また 国際ロータリー第2640地区 地区ビジョンとして

○国際ロータリー第2640地区は、国際ロータリーで定めた新しい「ビジョン声明」とそれに基づく「戦略的優先事項」および目的を理解し、地域の特性を鑑みて活動を展開します。

○不変である「ロータリーの中核的価値観」を尊重すると共に新しい変化にも柔軟に対応し、持続可能なロータリーを目指します。

○クラブの多様性に配慮し、元気で個性のある魅力あるクラブ作りに注力します。

1. クラブの会員基盤の向上に対する支援強化
2. 人道的奉仕の重点化と財団利用の推進
3. 公共イメージの向上とデジタル化の推進
4. RIの多様性・公平さ・インクルージョン(DEI)へのコミットメントへ賛同して推進します。
5. 変革する社会に対応し、ロータリーの基本価値を共有するRIの推進をあげています。

また今後の地区の予定に関しては4月21日に地区研修協議会、10月16日地区大会記念ゴルフ大会、関西空港ゴルフクラブ、地区大会が11月16日、17日スターゲートホテルです。

8. 閉会点鐘

次回例会

第2174回 2024年4月1(月)

新会員卓話 鳥羽 弘基 君



ニコニコ・BOX

岸 友子 君 ヒエンちゃん 1年間楽しめました。ありがとうございました。又、新天地で頑張ってください。

千賀 知起 君 //

角谷 太基 君 //

田中 祥秀 君 //

Rotary NEWS

世界からポリオ根絶を

WHO 東南アジア地域のポリオフリーが認定されてから、3月で10年となりました。

日本の会員の皆さまも、インドでの全国予防接種日への参加や募金活動を通じて、大きな役割を果たしてくださいました。この機会に改めて感謝申し上げます。世界からポリオを根絶できるよう、引き続きのご支援をお願いいたします。ロータリーと共にポリオをなくそう！

ヘルスワーカーとして仕事に事故で両足を失ったパキスタンのフーマさんは、人生を変えるほどの喪失を経験しながらも #ポリオ根絶 活動に復帰できる日が来ると信じています。不屈の精神で国民に勇気を与えているフーマさんを、同国首相が表彰し、仲間たちもサポートしています。

ポリオ根絶への折れない心

2023年9月11日、人生の岐路となる出来事が起きたその日も、彼女はヘルスワーカーとして外に出ていました。線路沿いのスラム街で活動していたときに列車事故に巻き込まれ、カラチ（パキスタン）の病院に救急車で運ばれたのです。

「あっという間の出来事でした。線路の向こうにある家を訪問しなければならなかったのですが、そこへ行くには線路を横切るしかありませんでした」。フーマさんは、事故当時のことを冷静に思い出します。「列車はまだ遠くに見えるように見えたので渡れると思ったのですが、風が吹いて、私のドゥパッタ（スカーフ）が列車に巻き込まれてしまったのです」

一瞬の間に、彼女は両足を失いました。

事故を目撃した人たちが救急車を呼ぶ中、彼女は驚くほど冷静に、手術による再接着を願って足を拾い、行きたい病院を指定しました。

妹のヒナさんは、その日のフーマさんがいかに勇敢であったかを振り返り、姉から受け取ったテキストメッセージを見せてくれました。そこには、驚くほどの明瞭さで次のように書かれていました。「足を失ったので病院に行きます。ママとパパには内緒にして」



手術が始まる頃には既に5時間近くが経過しており、そのダメージは取り返しのつかないものになっていました。

ヒナさんは手術後、勇気を出して両親に事故のことを話しました。

母親のルクサナさんは当初、足の指が損傷したのだろうと思いました。「私はけがの程度を理解できていませんでした」

困難を超越する

フーマさんは14歳のときから、アスピリンの効果は何か、女性が求める避妊法は何か、そして、経口ポリオワクチンを2滴投与すれば生涯ポリオから子どもを守れることを知っていました。これらは母親から教えられたことです。成長するにつれ、注射の打ち方も学びました。母ルクサナさんは、試しに自分に注射を打ってみることをフーマさんに求め、地域社会で基本的な医療を提供するための方法を一貫して訓練しました。ヘルスワーカーのルクサナさんは、1995年に活動を開始しました。長女であるフーマさんも同行し、母娘二人でカラチの街を歩きながら、女性や子どもたちに必要な医療を届け、その過程で人脈を築いていきました。

ルクサナさんの5人の子どもたちは全員、ポリオ根絶のために活動した経験がありますが、フーマさんだけが第一線のヘルスワーカーとして活動を続けてきました。彼女はポリオプログラムのチームメンバーとなり、最終的に地域責任者にまで昇格しました。

ワクチン接種員として、フーマさんとルクサナさんが一緒に活動した時期があります。「重要人物が大きな車でやってくると、私たちが紹介されました。私たちの仕事ぶりをみんな知っていたからです」とルクサナさん。「フーマが1日でどれほど長い距離を歩けるかを知って、みんな驚いたものです。フーマが歩けなくなる日が来るなんて思ってもみませんでした」

ポリオ根絶活動家たちの絆

この事故は、フーマさんにとって家族の意味を再定義するきっかけとなりました。ポリオプログラムの仲間やリーダーたちからは多大な支援が寄せられました。シンド州緊急対策センターのコーディネーター、イルシャド・ソダールさんにとって、フーマさんを確実に回復させることは使命だと話します。

